

審査委員特別賞

寺岡徹建築事務所
寺岡 徹

【作品名】
石内の家

設 計	寺�冈徹建築事務所
施 工	シバタ工業
竣 工 日	2021年12月15日

建物概要

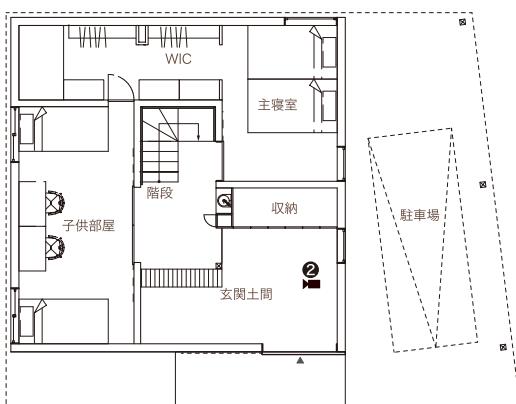
建設地	広島県広島市	延床面積	105.98m ²
敷地面積	207.69m ²	構造・規模	木造2階建

設備面の特記

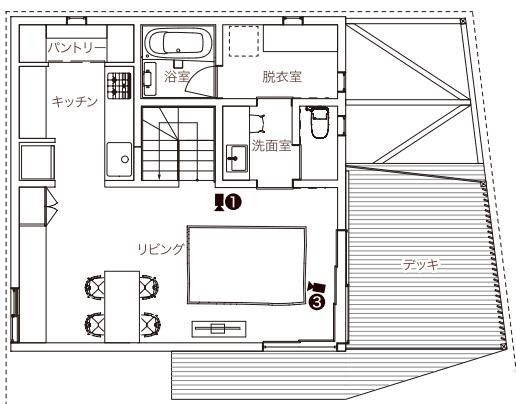
厨 房 機 器	IHクッキングヒーター
給 湯 機 器	エコキュート
冷暖房機器	エアコン

平面図

1F



2F



設計コンセプト

コロナの時代を経て、"戸建て住宅のニュースタンダード"は何かを考えたプロジェクトである。

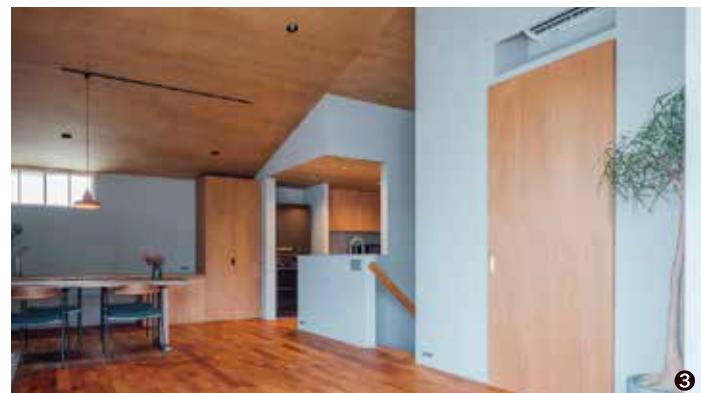
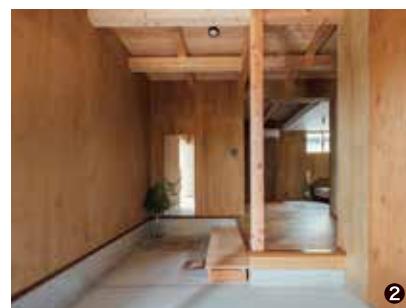
建物としては、4間×4間の2階建てに大屋根を掛けたシンプルな構成で、2階は開放的なリビングとし、1階は生活を支える機能的な空間とした。在宅時間が増え、郊外に生活する中で、豪邸でなくても生活や仕事、趣味などを充分に楽しめる空間と収納を備え、家族を支える家を考えた。

土地の特徴として、放射状に隣家が向かう生活の視線が交わらない敷地で、住宅地の端に位置する抜けのある場所であった。扇状地の端部にある崖地に近い敷地は、まさに広島らしい地形で、優れた環境を最大限に活かすため、2階のリビングはデッキと連続させ、明るく風通しの良い空間を作り、広島の山や町の風景と繋がる

リビングとした。1階と2階の異なる空間で、無理のない豊かな日常体験を住宅で実現している。

一方で、計画時はコロナの影響により海外との流通、経済と関わる建材が高騰し始め、施工が危ぶまれる時期であった。しかし、本来住宅は地域でつくられるものであり、失われた地域循環を取り戻すように、住宅をつくりながら再び地域の関係の中で家づくりをすることは可能かと考え始めた。

地元産材の活用された木を感じられる木造住宅としての姿、仕上げの"密度"を意識した木組み意匠、広島の地で長年の経験がある工務店との協働、それら全てを習合的に捉え、家も空間もコストもあらゆる問題を乗り越えていくような地方における住宅の未来を目指した。



③地元のヒノキ材を使用し、野地板は地元産材のCLTとした。室内フローリングやデッキは無垢材を使用し、長期スパンでメンテナンスをしながら愛着を持って使用できる計画とした。

審査委員講評

崖地に近い立地を活かしたデッキ空間と、大らかでありながら軒厚が薄いシンプルな外観が印象的な住宅です。眺望の良い2階をリビング・デッキなど生活のプラットフォームとしながらも、1階では巧みに陽光を取り入れ上階とは違う趣のある空間に仕立てています。一体的なリビングとデッキは障子などにより可変性を持った採光を実現し、大きく張り出した軒と合わせて気持ちの良い縁側空間となっています。